

重点取組分野	平成28年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①教科担任制を全学年にわたって効果的に取り入れ、課題解決を大切に単元づくりに努め、子どもの学ぶ意欲の高揚を図る。②重点研では「アクティブラーニングのなかで互いに学び合い、高め合う子を育てる」をテーマに『横浜の時間』を中心とした授業改善をめざす。	①社会、理科、図工などで教科担任制を取り入れ、専門性を生かして指導することで子どもの理解を深めることができた。保護者からもよい評価が得られた。②生活、総合の授業研究を通してアクティブラーニングの視点に立った授業の在り方を全職員で考えることができた。さらに子どもが主体的に取り組めるように研究を深めていく。	B
豊かな心	①「道徳の時間」の充実を図り、振り返りをおして子どもが自分自身を見つめることができるようにする。②ペア学年活動などの異年齢集団活動をおして、相手を大切にすることの取組ができるようにする。③「にこにこ人権会議」をおして、子どもたちが身近な人権について考え、自他の人権を尊重しようとする意識を高める。	①道徳の年間指導計画に沿って主題が偏らないように指導を行った。資料の吟味や提示の工夫を行い、体験活動を取り入れて子どもが意欲的に取り組めるようにした。②「にこにこ人権会議」で身近な所から子どもが課題を見つけて、皆で話し合うことでいじめや暴力の未然防止に務めた。保護者の評価も得ている。	B
健やかな体	①ロング屋休みを活性化させたり休み時間を活用した体力向上の取組を工夫したりして、進んで運動する習慣を身につけることができるようにする。②マラソンやシャトルランにチャレンジする機会をつくり、持久力が身に付くようにする。	①ロング屋休みが定着し、大勢で体を動かして遊ぶ姿が見られる。特に裏山の開放では山登りなどで普段使わない体の部分を動かすことができている。②マラソンやシャトルラン週間を設けることで、子どもたちが意欲的に運動に取り組んでいる。本校の課題である体の柔軟さを高める取組も考えていく。	B
特別支援教育	①児童支援専任を中心とした「釜利谷委員会」において児童理解を深め、支援を要する児童について支援体制を整える。②家庭への連絡を丁寧に行いながら関係諸機関との連携を図り、迅速な課題への対応をめざす。	①毎月の釜利谷委員会等で配慮を要する児童の共通理解を行っている。取り出し学習は個別の指導計画をもとに計画的に行っている。ATを活用し、支援体制を組織で確立している。②保護者とよく連絡を取り、学校だけでなく関係機関都連計を密にして子どもの支援にあたることになった。	A
児童指導	①「釜小ルール」を全職員で共有し、一貫した児童指導ができるようにする。②児童運営委員会等を通して高学年のリーダーシップを育て、あいさつ運動やいじめ防止の取組などを充実させる。	①「釜小ルール」は4年目となり、子どもに浸透している。子ども同士で声を掛け合うこともできている。「廊下を走る」などまだルールが守られていないところもあり、全職員でさらに気持ちを一つにして指導に当たる必要がある。②ペア活動や運営委員会の取組などで高学年のリーダーシップは育っているが、挨拶はまだ不十分である。いじめも0とは言えず、日常的に根気よく指導する必要がある。	B
地域連携	①「わくわくタイム」において地域の教育力や人材を活用できるようにする。②地域ボランティアによる教育活動を充実させるよう地域側と学校側の連携を図り、互いの協力体制を整える。	①「わくわくタイム」では地域の教育力を見出し、多くの人材を活用することができた。1年で終わることなく継続した取組を行っている。②地域の材を見直し、地域の教育力を学校に生かすことで充実した学習ができている。図書や花壇整備、郷土資料館のボランティアも年間通じて子どもたちのために活動している。こんごも地域との繋がりを大切にしていきたい。また、職員から地域への働きかけや協力体制を整え	B
いじめへの対応			
人材育成・組織運営	①キャリアステージに合った研修や他校の公開授業研究会等に積極的に参加し、広い視野で自己啓発に取り組み。②「OUT推進校」をメンター研修に活用し、経験の浅い教職員の授業力や学級経営力等を育てる。③企画会や教務会を通して、ミドルリーダーや学校リーダーが全体を見通しながら学校運営にかかわれるようにする。	①メンター研や10年次研、主幹教諭などに積極的に参加し、学んだことを教育活動に役立てている。他校の公開授業にも多くの教員が参加し、自己啓発に取り組むことができた。②「OJT推進校」として講師を招いて研修したり、校内で時期にあった課題を見つけて話し合ったりする事ができた。③企画会や主幹会等で見通しをもって学校運営を進めることができた。	B
ブロック内相互評価後の気付き	釜利谷フェスティバルでは各クラスが総合的な学習で取り組んだことを分かりやすく伝えて、とても意義のあるものだったという評価をいただいた。年間を通して取り組んだ学習の成果がよく見られたということだった。総合的な学習の単元づくりを学級経営の柱に据えることで子どもたちが意欲的に学校生活を送る姿が見られた。今後地域や人とのつながりを大切に授業研究を進めていきたい。挨拶が十分でないという意見はどの小学校でも見られた。特に登下校時に地域の人に挨拶ができないということで、今後、自分がお世話になっている方々にもっと意識を向けようとして進んで挨拶ができるように、学校と家庭で指導していく必要があると考える。		
学校関係者評価	「挨拶が不十分である」というアンケート結果について地域の方からは次のような話をいただいた。「挨拶は家庭で習慣化されているかによる。下校時に大人から積極的に声を掛けて自分が見守ってもらっている気持ちにさせる必要がある。」また、地域の安全を守るために、大人が公園を見回るなどできることに務めていきたいという話もあった。地域コーディネーターからは、挨拶の仕方を知らないだけで、教えればできる子たちであるという話があった。また、学校の清掃活動に地域の大人が関わることもできるという話もいただいた。また、フェスティバルで子どもたちのとてもよい姿が見られたという評価をいただいた。		
学校経営中期取組目標振り返り	目標の達成度については、概ねよいと思われる。「チーム釜利谷」として全職員で何事にも取り組んでいこうという意識はあるが、縦系統・横系統それぞれの連携が十分になされると、もっと達成感が大きかったと考えられる。重点研究で取り上げた「横浜の時間」は確かな学力への改善につながっている。他教科についての取組や基礎学力についても力を入れていきたい。地域から愛され、深くつながっている学校であるので、今後も地域の人材を活用した学習や活動・行事などを通してその力をお借りしていきたいと考える。職員のだれもが人材育成に携わる者という意識しながら、学校づくりに取り組んでい		

重点取組分野	平成29年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①教科担任制を全学年に渡って効果的に取り入れ、課題解決を大切に単元づくりに努め、子どもの学ぶ意欲の高揚を図る。②重点研では、「自分の考えを広げ、深める、対話的な学びをめざして」をテーマに、『横浜の時間』を中心とした授業改善をめざす。主体的で深い学びができるように研究を深める。	①中高学年においては、教科担任制により、学年職員で学年児童全員を指導していくという体制が整い、効果的な学習指導を行うことができた。②研究テーマを意識し、横浜の時間を中心に、必然性のある課題を設定し、児童どうしの対話的な学びが生まれるような学習指導について、職員全員で考えることができた。	B
豊かな心	①「特別な教科 道徳」で指導と評価が一体化した指導法を学び、自分自身をより深く見つめることができるようにする。②たてわり活動を取り入れ、これまでのペア活動で生かした年間計画を立て、異年齢集団による人とのつながりを築くために職員全員で取り組む。③「にこにこ人権会議」でいじめや暴力がなく、全児童が安心して過ごせる学校にするために何が出来るかを話し合う。	①道徳推進教師の積極的なはたらきかけにより、指導と評価の一体化に全教職員で取り組むことができた。②今年度から全学年児童が所属するたてわりグループでの活動となり、ペア学年だけでなく異年齢集団との交流が深まった。③人権会議やあいさつ運動の取組が、いじめや暴力を未然に防ぐことにつながった。	B
健やかな体	①裏山を開放して山登りをするなど、ロング屋休みを活用して体を思い切り動かす楽しさを知り、運動する習慣を身に付ける。②マラソンやシャトルランにチャレンジする機会をつくり、持久力が身に付くようにする。	①裏山を開放し、児童は遊びを通して山登り等の運動を行うことで、自ずと運動する習慣を身に付けている。②体育委員会による、「マラソン週間」や「逃走中(鬼ごっこ)週間」等の取組で、児童は楽しみながら持久力が身に付く運動を行うことができた。	B
特別支援教育	①配慮を要する児童の個別の指導計画を保護者とともに作成し、取り出し指導を行ったり、「釜利谷委員会」で児童の共通理解を図ったりして校内支援体制を充実させる。②児童支援専任を中心に家庭への連絡を丁寧に行いながら関係諸機関との連携を図り、状況に寄り添い迅速な課題への対応を目指す。	①児童支援専任を中心に、職員間での児童指導にかかわる情報共有がよくなっていった。配慮を要する児童が多数いることが現状で課題である。②児童支援専任や学校カウンセラーとの連絡がスムーズに行われ、保護者の要望や児童の状況に応じて、関係諸機関との連携・協力を得ながら課題に対応することができた。	A
児童指導	①「釜小ルール」を継続して全職員で共有し、一貫した指導を行い、児童に定着するようにする。また、見直しを進めながら、他校のスタンダードの共有を行う。②児童運営委員会を中心にあいさつ運動を活性化させ、明るい学校をつくる。	①「釜小ルール」については、だいが児童に浸透し、職員への共通理解も深まっているが、昨年度の課題でもある「廊下を走る」ことについては、引き続き重点的に指導が必要である。②運営委員会による「あいさつ運動」、及び「にこにこ人権会議」によるクラスごとの「あいさつロード」を年間通じて行うことでみんなで見守る学校をつくらうとする雰囲気になっている。	B
地域連携	①「わくわくタイム」において取り上げた地域の材(人、者物、歴史、文化等)を「国際」「情報」「自然環境」「福祉」「健康」「食」などに分類して、保存し、学習で活用できるようにする。②地域ボランティアによる教育活動を充実させるよう、学習や学校行事とつながる点を見出す。連携しやすい体制を整える。	①「わくわくタイム」(生活・総合的な学習の時間)で取り上げた、地域の材を「郷土資料館・地域交流室」等で保存し、効果的に学習で活用することができた。②釜利谷フェスティバル(生活・総合的な学習の時間)を中心とした学習発表会等で、多くの地域ボランティアの方々協力していただく等、連携しやすい体制になっている。	A
いじめへの対応	①担任と児童との定期的な面談やアンケートから情報を得られるようにする。②児童や保護者の思いを引き出すカウンセリング等の研修を行う。③学級や学年の児童について学年研やブロック研で語り合う時間を作り、職員会議等では全職員で情報を共有する。④児童支援専任を中心とした校内支援体制を確立し、早期発見・早期支援にあたる。	いじめにかかわる定期的なアンケート等から、いじめの状況を早期に把握し、適切に対応することができた。定期的な児童指導にかかわる研修や情報を共有する時間を確保することで、いじめの実態に関して職員間での共通理解を図ることができた。組織的な校内支援体制を継続して、いじめの早期発見・早期支援にあたる。	A
人材育成・組織運営	①キャリアステージに合った研修や講座、他校の公開授業研究会等に積極的に参加し、広い視野で自己啓発に取り組む。②企画会や主幹会を通して、ミドルリーダーや学校リーダーが全体を見通しながら学校運営に関われるようにする。③学校運営サポート推進校の取組を通して授業研究や職員研修等を行い、個々の授業力を高めたり相互に学び合ったりする。	メンター研や各ステージの研修に参加し、自己啓発に取り組むことができた。他校の公開授業に関しては、自習体制等を考慮すると、参加が難しい状況もあった。企画会等の実施により、学校運営全般をスムーズに行うことができた。学校運営サポート推進校の取組により、職員の指導力向上につながった。	B
ブロック内相互評価後の気付き	児童の中学校進学後のようすを見ると、自分で考えて、その状況にあった正しい判断による行動をとることができない状況が目立つという指摘を受けた。学習指導において、基本的な学力をもとにした、思考力・判断力を身に付けるための授業改善がさらに必要であると感じた。釜利谷フェスティバルでは、各クラスで地域の材を生かしたテーマをもとに、生活・総合的な学習の時間で取り組んだことを分かりやすく発表していたという評価をいただいた。今後地域の方々協力体制を大切にしながら、指導にあたっていきたい。あいさつの指導に関しては、どこの学校も苦慮しながら工夫して取り組んでいる。他校の取組も参考にしながら、継続して取り組んでいきたい。		
学校関係者評価	あいさつの指導について、次のようなご意見をいただいた。あいさつにかかわるアンケートの質問内容が、あまり具体的でないのだからよくわからない。学校内でのあいさつのことか、家庭や地域でのことなのか。来年度は、具体的にわかりやすい質問にしたほうがよい。学校内でのあいさつがもっと充実していけば、地域でのあいさつも自主的に行われるだろうというご指摘もあった。保護者アンケートで、「判断できない」の回答が多いのが気になる。学校の教育活動が知られていないということではないか。地域コーディネーターの活動として、ボランティアの方々意見聞いてさらに充実させていきたい。		
学校経営中期取組目標振り返り	保護者・地域の方々からの学校評価については、全般的によい評価をいただいている。「確かな学力」にかかわる取組では、横浜市学力・学習状況調査の結果からは、さらに学習指導の工夫・改善が課題としてあげられる。教科担任制の効果を高めるための工夫や重点研での取組等を通して、児童の学力向上につなげていきたい。いじめへの対応では、児童支援専任を中心に、定期的なアンケートや児童指導に関する研修を行うことで、いじめの早期発見・早期支援に努めてきた。今後も職員で共通理解を図りながら、いじめ防止に努めていく。		

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①教科担任制を全学年に渡って効果的に取り入れ、課題解決を大切に単元づくりに努め、子どもの学ぶ意欲の高揚を図る。②重点研では、「自分の考えを広げ、深める、対話的な学びをめざして」をテーマに、『横浜の時間』を中心とした授業改善をめざす。主体的で深い学びができるように研究を深める。		
豊かな心	①「特別な教科 道徳」で指導と評価が一体化した指導法を学び、自分自身をより深く見つめることができるようにする。②たてわり活動を取り入れ、これまでのペア活動で生かした年間計画を立て、異年齢集団による人とのつながりを築くために職員全員で取り組む。③「にこにこ人権会議」でいじめや暴力がなく、全児童が安心して過ごせる学校にするために何が出来るかを話し合う。		
健やかな体	①裏山を開放して山登りをするなど、ロング屋休みを活用して体を思い切り動かす楽しさを知り、運動する習慣を身に付ける。②マラソンやシャトルランにチャレンジする機会をつくり、持久力が身に付くようにする。		
特別支援教育	①配慮を要する児童の個別の指導計画を保護者とともに作成し、取り出し指導を行ったり、「釜利谷委員会」で児童の共通理解を図ったりして校内支援体制を充実させる。②児童支援専任を中心に家庭への連絡を丁寧に行いながら関係諸機関との連携を図り、状況に寄り添い迅速な課題への対応を目指す。		
児童指導	①「釜小ルール」を継続して全職員で共有し、一貫した指導を行い、児童に定着するようにする。また、見直しを進めながら、他校のスタンダードの共有を行う。②児童運営委員会を中心にあいさつ運動を活性化させ、明るい学校をつくる。		
地域連携	①「わくわくタイム」において取り上げた地域の材(人、者物、歴史、文化等)を「国際」「情報」「自然環境」「福祉」「健康」「食」などに分類して、保存し、学習で活用できるようにする。②地域ボランティアによる教育活動を充実させるよう、学習や学校行事とつながる点を見出す。連携しやすい体制を整える。		
いじめへの対応	①担任と児童との定期的な面談やアンケートから情報を得られるようにする。②児童や保護者の思いを引き出すカウンセリング等の研修を行う。③学級や学年の児童について学年研やブロック研で語り合う時間を作り、職員会議等では全職員で情報を共有する。④児童支援専任を中心とした校内支援体制を確立し、早期発見・早期支援にあたる。		
人材育成・組織運営	①キャリアステージに合った研修や講座、他校の公開授業研究会等に積極的に参加し、広い視野で自己啓発に取り組む。②企画会や主幹会を通して、ミドルリーダーや学校リーダーが全体を見通しながら学校運営に関われるようにする。③学校運営サポート推進校の取組を通して授業研究や職員研修等を行い、個々の授業力を高めたり相互に学び合ったりする。		
ブロック内相互評価後の気付き			
学校関係者評価			
学校経営中期取組目標振り返り			